

くすりばこ



薬剤部
新井 雅子

78. 予防接種のはなし

新年度を迎え、進学や転勤などで環境が変わったり新たな生活を始めたりする方も多いのではないのでしょうか。今回のお話は、年に一度は確認していただきたい予防接種についてです。

予防接種ってなに？

毒性を弱めた病原体であるウイルスや細菌、あるいはそれらが作る毒素を前もって投与しておくことにより、その病気にかかりにくくすることを予防接種といいます。

ワクチンってなに？

予防接種で投与するものをワクチンと言います。ワクチンには作り方によって3種類あります。

生ワクチン

病原体(ウイルスや細菌)は生きていけれど、病気を発生させる能力(病原性)を弱めたものです。その病気に自然にかかった場合と同じくらいの免疫がつけます。病原性を弱くしたウイルスや細菌が体内で徐々に増えるので、接種してから1~3週間後に自然にかかったのと同じような軽い症状が出ることがあります。

BCG、麻疹、風疹、MR(麻疹+風疹)、おたふく風邪、水ぼうそうなど

不活化ワクチン

細菌やウイルスの病原性を弱くしたものです。生ワクチンに比べて免疫力が弱いので、何回かに分けて接種することが多いです。

4種混合(百日咳+ジフテリア+破傷風+不活化ポリオ)、3種混合(百日咳+ジフテリア+破傷風)、2種混合(ジフテリア+破傷風)、日本脳炎、A型肝炎、B型肝炎、インフルエンザ、肺炎球菌など

トキソイド

細菌が作る毒素を取り出し、免疫を作る能力は持っているけれど毒性を弱くしたものです。

⇒ ジフテリアや破傷風のワクチン

※異なる種類のワクチンを接種する場合は間隔をあける必要があります。これは、発熱などの副反応の出る期間を避けることと、体内から病原体を除去する働きをする抗体が十分に作られて抵抗力をより高めるためです。

生ワクチン → 次のワクチン: 27日以上経ってから

不活化ワクチン・トキソイド → 次のワクチン: 6日以上経ってから

副反応ってなに？

予防接種のあとに熱が出たり接種した部位が腫れたりする変化を副反応といいます。副反応には、生ワクチンの副反応である「感染型」と、すべてのワクチンで出現する可能性のある「免疫アレルギー型」があります。

「感染型」は、発熱や発疹など文字通り自然にかかったときと同じくらいの潜伏期間で症状が現れます。「免疫アレルギー型」の場合は、注射部位が赤くなったり腫れたり硬くなったりします。また、接種後24~48時間以内の発熱などの症状がみられます。これらは身体の反応である一時的な症状です。

予防接種を希望する場合はどうすればいいの？

予防接種には、法律で接種が勧められている「定期接種」と病気の流行状況などにより希望して接種する「任意接種」があります。

「定期接種」は決められた時期なら公費補助を受けて無料で受けられるところが多いです。この決められた期間を過ぎてしまった場合やその他、手続きなどについてはお住まいの自治体にお問い合わせ下さい。特に幼児期は接種する種類も回数も多いので、上手に計画を立てて接種できるとよいですね。

当院では予防接種は予約制となっております。ご希望の場合は、主治医にご相談いただくかお電話にてお問い合わせ下さい。